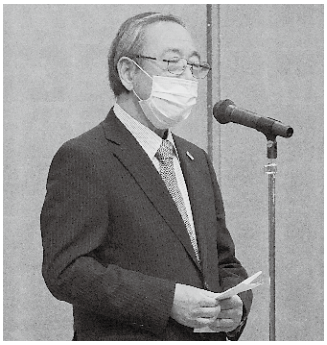
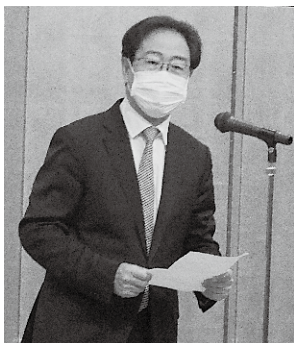
会報
東海書道藝術院
東書藝
第一四六号
令和４年８月
http://www.toshogei.jp/

第六十九回 公募 東海書道藝術院展報告
開場式・贈賞式開催

第六十九回東書藝展は、令和四年四月五日（火）～十日（日）、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー栄の両会場で同時開催された。前日の搬入作業も滞りなく完了。当日第一会場では開場式を挙行でき、春の祭典らしい華やいだ雰囲気に包まれた。とは言え未だコロナ感染拡大への警戒・対策が必須の状況は変わらずに緊張感も残る。冨永奇昂副理事長の進行で、風岡五城会長挨拶の後、テープカット。二年ぶりの光景に参加者も嬉しそうで、無事終了後、思い思いの作品に見入っていた。


風岡五城会長

午後、名古屋ガーデンパレスにて贈賞式。今年も祝賀会はやむなく中止となったが、贈賞式は対策をとって粛々と執り行われた。司会は第一事業局次長・井浪幸潭常任理事と褒賞部・壁谷桔華常任理事。安藤清舟副会長の開会の言葉、風岡五城会長、木村大澤理事長挨拶に続き、中華人民共和国駐名古屋総領事・劉暁軍先生よりお言葉を賜って贈賞に移った。受賞者の出席は五十八名。皆さん充実したお顔だ。昨年も書いたが来年こそは祝賀会でお祝いしたい。贈賞は順調に進み、大賞受賞・沖賀青陽さんが喜びの言葉を読み上げ、最後に水谷紅楓常任参事の閉会の言葉で幕を閉じた。


総領事劉暁軍様

この後、第二会場で、総領事劉先生、客員唐啓山先生、風岡会長、木村理事長、山本晴城副理事長が和やかに談笑されながら作品鑑賞される様子を見つけて何だか誇らしい気持ちになる。また今年もありがたく大村秀章愛知県知事・名誉会長のご来場を賜った。

両会場に足を運んで下さった延べ二千名以上の方々に厚く御礼申し上げます。

第六十九回展幹部作品抄録

愛知県知事　名誉会長　大村秀章

会長　風岡五城

鑑賞される大村名誉会長

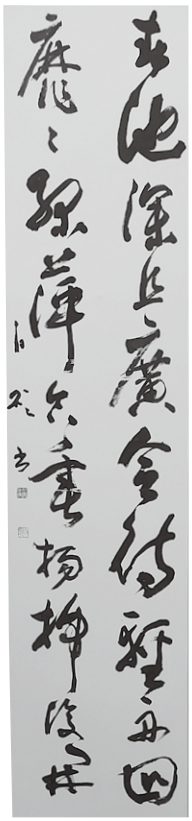
常任参事　尾関陶山

副会長　安藤清舟

常任参事　岩田冬崖

常任参事　谷口竹城

常任参事　水谷紅楓



常任参事　松浦白碩

常任参事　西尾邑城

理事長　木村大澤

〈上位受賞者作品〉

会員の部

大賞　沖賀青陽

準大賞　増田孝志

知事賞　大山湯泉

総領事賞　浦野博夫

中日賞　川口志満子

東書藝賞　平井瑛玉

準会員の部

市長賞　酒井奏風

県教委賞　堀田紫泉

市教委賞　恒川玲舟

中日賞　三苫花風

中日賞　駒田香代子

東書藝賞　鈴木萌園

東書藝幹部による
第六十九回展　私の選んだこの作品

会長以下、幹部の八名の先生方に、賞の対象とはならない院人（常任理事以上の役員を除く）の中から、ご自分の社中以外でこれはと思う秀作を八点選んでいただいた。その方々の氏名と作品写真、内二作品の講評を紹介します。（敬称略）

風岡五城会長

①山本　美峰
出だしから後半に向かって大きな広がりを見せる作品構成の非凡さが光る。さらに行を追って見ていくと文字の大小・粗密、墨量の変化、緩急など、実に多彩な表現に驚かされる。

②長谷川　雅江
二×八尺に一文字の揮毫。発想の奇抜さと大胆さを買う。東書藝のスローガン「自由かつ大胆」を髣髴とさせて頼もしい。更なる深化を期待すること大である。

③小島　芳泉　④平松　文子
⑤伊藤　芳桜　⑥三田　敬華
⑦野呂　麗水　⑧横井　青蓮

安藤清舟副会長

①城田　桑軒
玉士縝詩の長文を自在な筆致で丁寧に書いており、そこから生まれる文字造形が行間の白を生かした快作。

②伊藤　一楓
載叔倫詩。程よく文字の大小を交え運筆悠々充実感漲る。長年の修練の跡が窺える作でお見事。

③角脇　尚園　④中村　清葉
⑤中根　靜流　⑥伊藤美どり
⑦水谷　汀華　⑧菅沼　松峯

岩田冬崖常任参事

①加藤　真風
古典を凝視することで宿命の課題が解決される。その一里塚の作品に好感。更なる修練に期待したい。

②立松　勝
新しいスタイルの開花に果敢に挑戦していることが純粋に感じられ魅力的な作。一層の精進を期待。

③吉川　馨泉　④岡本　翠園
⑤久保　幸燿　⑥杉原　和香
⑦梶　蘇山　⑧石山　荷心

谷口竹城常任参事

①三谷　小京
自詠詩である。枠、いっぱいの作品であるが窮屈さがない。気分爽快。

②井分　潭風
印泥の明るさが印をひきたたせる。書との調和もよい。作品全体から温かみを感じる。

③中村　清葉　④鳥居　玉香
⑤吉川　馨泉　⑥伊藤　緑穂
⑦浜島　圭園　⑧河野　正子

西尾邑城常任参事

①岩井　玲翠
軽重織り混ぜ一気呵成の筆意に感銘を受けた。

②花井　萃川
張瑞図の書風を自家薬籠の物とし、粘り強く書き切った集中力に感心。

③澤　麗水　④服部　草心
⑤名古路雅翠　⑥松田　真香
⑦井上　清道　⑧菅野　香楓

松浦白碩常任参事

①杉原　和香
多字数の小字を文字の大小、線の太い細い、圧の強弱を巧みにこなし、すっきりした作。

②三浦　希韶
木簡調で淡々と書し、熟練した線条と字間、行間に余裕があり、躍動感が溢れている。

③服部　草心　④後藤　紅燕
⑤三村　菱花　⑥松田　真香
⑦岡田　静嶺　⑧松井　光楓

水谷紅楓常任参事

①蔦　皓月
大胆な運筆で、堂々たる書きっぷり、他を圧倒する。

②鎌田　岳風
力むことなく、悠々と書けて、余裕すら感じさせる作。

③中村　清葉　④豊田　月花
⑤浜島　圭園　⑥好田　小沙
⑦櫻井　花筵　⑧野田　清華

木村大澤理事長

①三谷　小京
大胆な筆致による魅力溢れる書。縦横無尽に躍動する生気に満ちた書線が、鑑者に強烈なインパクトを与えてくれる逸品である。

②菅野　香楓
余白を生かし、全体として爽やか雰囲気を醸しながら、書線は力強く、変化の妙を盡くした味わい深い書である。

③蔦　皓月　④鳥居　玉香
⑤横井　青蓮　⑥小島　芳泉
⑦井分　潭風　⑧平松　文子

安藤・谷口・水谷選　中村清葉

風岡・木村選　平松文子

風岡・木村選　小島芳泉

風岡・木村選　横井青蓮

谷口・木村選　三谷小京

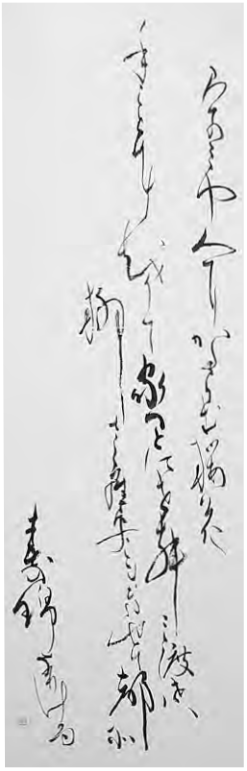
谷口・木村選　井分潭風

谷口・木村選　鳥居玉香

谷口・水谷選　浜島圭園

水谷・木村選　蔦皓月

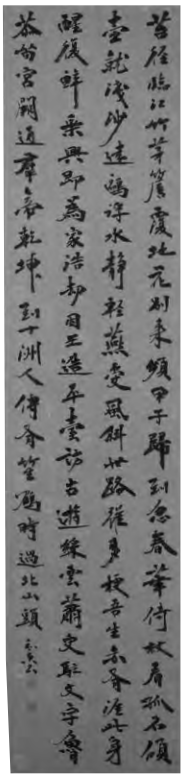
西尾・松浦選　服部草心



西尾・松浦選　松田真香

西尾・木村選　菅野香楓

岩田・谷口選　吉川馨泉



岩田・松浦選　杉原和香

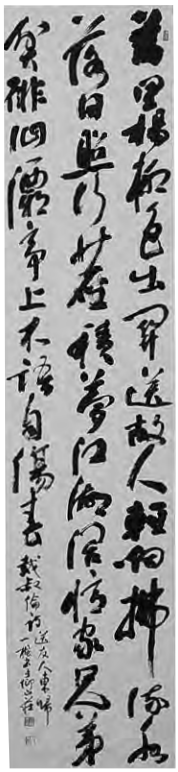
風岡選　長谷川雅江

風岡選　伊藤芳桜

風岡選　三田敬華

風岡選　野呂麗水

安藤選　城田桑軒



安藤選　伊藤一楓

安藤選　角脇尚園

安藤選　中根靜流

安藤選　伊藤美どり

安藤選　水谷汀華

安藤選　菅沼松峯

岩田選　加藤真風

岩田選　立松勝

岩田選　岡本翠園

岩田選　久保幸燿

岩田選　梶蘇山

谷口選　伊藤緑穂

谷口選　河野正子

西尾選　岩井玲翠

西尾選　花井萃川

西尾選　澤麗水

西尾選　名古路雅翠

西尾選　井上清道

松浦選　三浦希韶

松浦選　後藤紅燕

松浦選　三村菱花

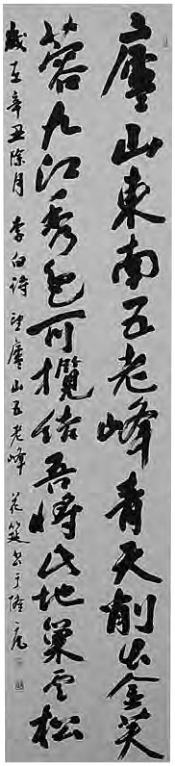
松浦選　岡田静嶺

松浦選　松井光楓

水谷選　鎌田岳風

水谷選　豊田月花

水谷選　好田小沙



水谷選　櫻井花筵

水谷選　野田清華

風岡選　山本美峰

岩田選　石山荷心

第一会場

第二会場

第六十九回東書藝展　受賞者に聞く

今年も栄えある賞に輝いた皆さんの中から、会員、準会員の部の上位入賞者の方々十一名がアンケートに答えてくださった。設問内容は次のとおり。またその受賞作品は3頁に掲載しました。

①現在学んでいる古典は。
②その古典のどこに魅力を感じていますか。
③今回の出品作で、制作上特に大切にしたことは。
④（受賞を機に）これから挑戦してみたいことは。
⑤ご自身にとって「書道」とは。
⑥受賞の感想と今後の抱負。

◆会員の部　大賞

沖賀　青陽

①趙之謙行書
②逆入平出の運筆、線質。
③筆遣いと文字の大小、形。
④趙之謙だけでなく、色々な古典を学び、作品の幅を広げていきたいです。
⑤私を造り上げる大きな要素のひとつです。
⑥この度は身に余る賞をいただき、誠にありがとうございます。日頃よりご指導くださる先生方のお蔭と深く感謝しております。栄誉ある賞をいただけたことを誇りに思いつつ、これを新たな出発とし、今後より一層精進して参ります。

◆会員の部　準大賞

増田　孝志

①a．美人薫氏墓誌銘
　b．蘭亭序
②a．隋時代を代表する楷書古筆で線質の変化と強弱の妙。
　b．流麗な線、抑揚、表情の豊かさ。
③文字の布置、太細、墨の潤渇と力強さ。
④書技を更に深めたい。又書の知識も深めればと思っています。
⑤無心に集中没頭出来るかけがえのないもので又広汎、深淵なもの。
⑥此の度は思いも掛けない賞を頂き有難うございました。これも偏に伊藤春魅先生の心からの御指導のお蔭と心より感謝しております。更に社中の方々のお支えあってのことと併せて心から御礼申し上げます。今後は、此れを機に増々書技向上と書の知識を深めたいと思っております。

◆会員の部　知事賞

大山　湯泉

①顔真卿
②懐深く、緻密な所。
③自分のリズムと潤いに留意し、詩を読み、温かく友を送り出す気持ちを込めました。
④色々な古典に接し、更に作品の幅を広げていきたいです。
⑤生涯楽しむ術の一つ。
⑥知事賞受賞は大変嬉しく光栄です。ご指導くださる勝田晃拓先生や、共に稽古する友人、家族の理解、又コロナ禍の中、書展開催に尽力下さった先生方と、多くの人のお蔭で受賞に到りました。本当に有難うございました。書く事が好きで現在に到ります。今後もこの気持ちを大切にマイペースではありますが、精進し、書と共に人

としても成長したいと思います。引き続き、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

◆会員の部　総領事賞

浦野　博夫

①張瑞図
②運筆、字形、線質。
③墨量と文字のバランス、文字の配置。
④現在学んでいる張瑞図の書風を生かし、臨書ではなく創作した作品を書いていきたいと思います。
⑤静かに心を落ち着ける大切な時間です。
⑥この度は身に余る賞を頂き誠にありがとうございます。日頃よりご指導下さる風岡五城先生に心から感謝御礼申し上げます。また宏道書会の先生方にも感謝申し上げます。今後もこの賞を励みに努力していく所存です。これからも御指導の程よろしくお願い申し上げます。

◆会員の部　東書藝賞

平井　瑛玉

①書譜
②軽やかで自由な運筆。
③全体のバランス、墨の潤渇。
④初心にかえり、古典を中心により一層学びを深め、自分の筆法の幅を広げ、様々な作品制作に取り組んでいきたいです。
⑤自分自身の一部であり、自分と向き合えるとても大切なものとなっています。心を整え、字を美しく書く書の時間を通して、自分の成長を感じられるのみならず、新しい学びや文化等に触れることへの機会と幅が広がっているように感じています。
⑥この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。これも日頃より温かくご指導して下さる寺田小華先生のお蔭と、心より感謝申し上げます。書の奥深さに魅了されると同時に、自分の未熟さを痛感する日々ですが、より一層精進して参ります。引き続き、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

◆準会員の部　市長賞

酒井　泰風

①高貞碑
②力強さ
③まだ北魏楷書を学び始めて日が浅いので、始筆など基本的なことを気をつけました。また、楷書の作品集や過去の展覧会の会報に載っている楷書作品を見て、墨の潤渇などに注意しました。
④北魏楷書はもちろん、他の様々な古典を学んでみたいです。
⑤幼少期からずっと一緒に人生を歩んできた相棒のようなものです。学業や仕事に追われて辞めようと思うこともあったけれど、尊敬できる師や先輩方に出会えたり、結局は好きな気持ちが勝ったりしてここまで続けてこられました。
⑥この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。これも、ひとえに日頃よりご指導くださる木村大澤先生のお蔭です。心より御礼申し上げます。これからも一層精進してまいりますので、変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

◆準会員の部　県教委賞

堀田　紫泉

①張遷碑
②重厚な点画、字形。
③文字の大きさ、八分。
④臨書を基にもっと文字数の多い作品にも挑戦していきたいです。
⑤心が落ち着き集中できる、私にとってかけがえのない大切なものです。
⑥この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。

この賞を頂けたのも日頃よりご指導下さる鈴木紫舟先生のお蔭です。この場を借りて心より御礼申し上げます。今後もこの賞を励みにより一層精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

◆準会員の部　市教委賞

恒川　玲舟

①王鐸
②連綿の多様さとリズムに乗った躍動感。
③墨量、文字の大小・長短。
④目の前の課題を繰り返し練習することや、書道展等で様々な作品を鑑賞することを通して研鑽を積み、苦手意識がある分野の課題にも意欲的に取り組んで参りたいと存じます。
⑤お稽古を重ね、技術や知識を習得する程に改善すべき点が新たに映し出されます。納得できないからこそ更なる高みを目指そうとする場所です。
⑥このような賞をいただけましたのも山本晴城先生のご慈愛に満ちた熱意あるご指導と宏道書会の先生方の丁寧なお導き、諸先生方の適切なご助言のお蔭と衷心より御礼申し上げます。書の研鑽を通して人としても成長できるよう努めて参りたいと存じます。

◆準会員の部　中日賞

三苫　花風

①蘭亭序
②一字一字の構成、紙面全体における空間の美しさ。
③全体の流れ。
④基本を深く学び、より美しい作品に挑戦したい。
⑤雑念から離れて無心になる時間。
⑥このたびの思いがけない受賞に心より感謝しております。いつも温い心で適切なアドバイスを下さる榊田白蓮先生に御礼申し上げます。これからも書道の上達に励むことで、人生を豊かにしていけるならば嬉しいです。

◆準会員の部　中日賞

駒田　香代子

①張遷碑、史晨碑。
②威厳のある力強い線質。
③力強い線質と線の切れ味を出すことを大切にして制作しました。
④他の隷書体を中心に臨書を学び、今後の創作に活かしたいです。
⑤日常を忘れ、「無」になることの出来るかけがえのない時間であり、自己表現の場。
⑥この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。これも日頃より熱心にご指導下さる冨永奇昂先生のお蔭と心より感謝申し上げます。今後も尚一層精進して参りますので、引き続きご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

◆準会員の部　東書藝賞

鈴木　萌園

①美人董氏墓誌銘
②運筆、字形。
③墨の濃淡、線質、文字の配置。
④古典を基本に色々な作品を学んで行きたいです。
⑤日常の諸事から離れ、心静かに自分と向き合い、夢中になれる大切なもの。
⑥この度は思いがけない賞を頂き、喜びと共に大変驚いています。いつも優しく熱心にご指導して下さる梓会理事長の伊藤春魁先生、子供の頃より私を導いて下さった故横井尚石先生に心より感謝申し上げます。今後も作品制作では大変な時があるかと思いますが、日々楽しみながら学んで行きたいと思って居ります。変わらぬご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

2022 東書藝院人研修会

令和四年三月二十七日（日）　愛知県芸術文化センターアートスペースA

三年ぶりの院人研修会が、第一部・座談会―選文から作品完成まで―、第二部・DVD鑑賞「二十世紀の巨匠たち」の二部構成で行われた。九十名が参加。第一部では、風岡五城会長、木村大澤理事長、伊藤春魁・冨永奇昂両副理事長の四先生が登壇。石黒鴻羽研修部長の司会で、初めに安藤清舟副会長の開会の言葉から座談会が始まった。テーマは、

①豊かなイメージの構築、効果的な選文のために日頃から心がけていること

②選文の決め手にすること

③選文に推奨する参考図書

④作品の構想を練る時の工夫

⑤作品の練度を上げるには

の五項目。それぞれのお話をかいつまんで要約する。

①について。**木村先生** 書道展の作品・図録を漠然とでなく目的を絞ってじっくり見る。また古典の臨書は勿論、音楽イベント等、他のジャンルとの共通性なども探りたい。**風岡先生** 書道展、美術展などはあまり直接選文とは結び付かないが、創作意欲・美意識の刺激に良い。指導者には、内容・形式・選文に実際の書作の傾向と対策が必要だ。**伊藤先生** 仮名作家の立場で、短歌・俳句を二首三首と書く場合、季節性や作者等気にしながら順を重視して選文している。**冨永先生** 三部担当として話すと、読書、書美術展、図録、古典の臨書など全てが一番で大事。一字書の実物の作品からの紙や墨色のリアル、篆刻作の面白い造形を書に置き換えたり、作品から得る要素は多い。

今古典の臨書で取り組んでいるものは、の質問には、**木村先生** 北魏楷書が基本だが、金農、楊峴、楊守敬など清代の書が興味深い。骨力のしっかりしたものが好きだ。**風岡先生** 選文と古典の臨書との関わりは意識していないが、楷書は北魏の碑、造像など少し未完成の処に惹かれる。隷書は漢碑もいいが、簡牘類もよくやる。自由な造形がよい。篆書体では漢代の袁安碑。線のカーブがいい。**伊藤先生** 得意は大字仮名だが、一番は関戸本古今集。筆の開閉・抑揚が大胆で、伝統的な形をしていながらおしゃれ。細字から大字へスムーズに移行できる古典と思っている。また大字仮名は特に漢字をやらないとと思う。仮名作品中の漢字の良し悪しはウェイトが大きい。**冨永先生** 今これはというものはないが、あえて言えば手島、青山先生などが古典の臨書したものを眺めたりする。昭和初期の書道雑誌も面白い。実験的作品の熱意の発見が楽しい。

司会より風岡先生は読書を一番にされていたが、に対して **風岡先生** 心に響く言葉に出会う事を期待して読むことが多い。作品に使えそうな言葉を控えておくなどするが、書は言葉を書く芸術だから、今自分が書きたい事やいい言葉の背景や深みを求めたい。そのためにも安直な墨場必携でなく、本を開く。

司会 その他として事前アンケートで安藤清舟先生は古書店巡り、冨永先生はSNSを挙げられた。**冨永先生** 私はスマホ、ユーチューブなどを見たりする。遠方の展覧会や講演会が見つけられる。

②について。**風岡先生** 繰り返すが、書は文字でなく言葉を書く芸術。感動・共感、いい言葉を書いてみたいし人にも伝えたいが、あくまで自分が書いてみたい事が重要。ただいい言葉でも作品にしづらいものもあり、理想と現実のギャップはある。**伊藤先生** やはり感動・共感だが、師の教えで「書には詩情表現が不可欠。一つの言葉や短歌・俳句を選ぶとき、既にその内容の良し悪しを考えるし、書作をする

者はそれを取り上げる時の感情は生まれている筈であってその詩情を書作の上に表現するのは当然である。」という言葉がある。作品になりにくいものもあるが、感動・共感を大切にして選文に活かしたいと思っている。

木村先生 感動・共感は理想だが、私は作品構成を一番にした。全体にいい字面、より書きやすいものを選んで、内容はさておき全体の章法を考える。大小・長短・メリハリなどを第一段階としてふるいにかけ、そして内容・季節感・心情を反映させる。理想は詩の解釈に沿って出来るだけ自分の表現をすることだ。**冨永先生** 話題性にも注目する。第三部の近代詩文・一字書・二字書などは話題性を盛り込んで表現しやすいメリットがある。また違ったアプローチで昔を思い出して書く回想法というものもあるが、これは番外。

司会 推薦される参考図書は別紙を。

④について。**木村先生** 構想を練る工夫は、皆さんされている事ばかりだが、縮尺サイズの紙に下書きを重ねる。特別工夫はないが、小さな紙に小さい筆で字数調整など構図を練る。**風岡先生** 私も思いつくにまかせて、小筆で縦横紙の大きさなど構成につながる想定をしながら半紙にどんどん書く。そして実際書く時になると、用具・用材で非常に効果が違ってくるので試す。書の歴史をみても、用具用材が変わると字が変わっている。我々も違う筆、紙、筆で書いたら変わる。日頃から色々と投資しておく必要があるが…また、前例として故人の作品の構成も図録などでみる。**伊藤先生** 私は完璧と思える草稿作りにとにかく時間をかける。作品にストーリー性を盛り込むという事だが、紙を浪費したくないし、鉛筆と消しゴムで小さい紙に何度でも書き直す。作品のストーリー性とは、一日の行動に例えて朝・静かに出だす、昼・活発に活動、夜・徐々に整えて収めていく…というふうに考えている。また仮名作品は散らし書きは避けて通れない。以前は古典や先人のものを研究して何十種類もひな形を作り、それに詩を当てはめることを繰り返しした。余談かもしれないが、他の芸術や趣味を楽しむことにより感性が磨かれていくのではないかと思っている。

冨永先生 私もほぼ同じだが、後で後悔したくないので、出るアイデアは全て書いてという思いだが、実はアイデアスケッチを完成させてはいない。一字書などは偶然性もとても大切。わざと偶然性を容認する領域を作る。その方が大らかで見所が出てくる作品が生まれ易い。問題になるのは、偶然出来たものを自分の個性、魅力と判断する眼力を鍛える必要があることだ。

⑤について。**司会** 作品の練度を上げるにはで、時間を置いてよく観察するを挙げられた三先生から先ず**風岡先生** 自分の作品の良し悪しは迷う。愛着もあり捨てがたいので中々難しいが、時間・距離を置いたりしてみると少し客観的に見えてくる。遠くにかけてみるとか翌日とか、薄暗い所（電気が煌々とあると細部が見えすぎて判断がつかないこともある）で見るとかして、全体としていいと感じるものを選ぶ。またデジカメの眼を通すと何となく客観的に見えてよいが、結局は自分の眼を信じるほかない。**伊藤先生** 一日中一生懸命書くと頭も身体も疲れる。夜これで良しとしても翌朝見るとあまり…という事はよくある。書き上げて直ぐは達成感があるし、墨も乾いてないとても良く見える。二、三日置いて冷静になって感じなかった事が見えてきたり、新しい発見があったりする。選ぶ決め手は、線か収め方か字形かと色々あるが、平均点の無難なものは良くないかな。本当にいい作品が書けるかの一番大事な点は、これでもういいとするか、もうひと頑張りするかの違い。前より良くなる保証はないが、昨日の自分に挑戦する気持ちが尊いと思っている。**冨永先生** それはとことん書くということですね。わたしも迷ったらスマホで撮って寝ながら確認したりする。例えば図録など印刷物は実際より小さいので、小さくても伝わるかとかはデジカメでやり易い。若い頃牧以観先生に新書芸作品の見方を教わったが、特に二字書は線の関係性（引き合い、響きあい）を判断材料にしている。

以上、第一部座談会を要約した。休憩後、第二部のDVD鑑賞が行われ、最後に松浦白碩常任参事の閉会の言葉で無事終了となった。

七十周年記念事業「記念誌」発行について

理事長　木村　大澤

七十回展作品〆切は令和四年十一月末日に

来年、東書藝は第七十回記念展を迎えることになりました。これも偏に会員の皆様のご支援ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

東書藝は、過去の記念の年には何かしらの行事等を行ってまいりました。特に、中国との交流、展覧会等は何度かございましたが、このところのコロナの影響で、大規模な計画は不可能です。そこで今回は「記念誌」の発行を計画いたしました。

早急に業務を進める関係で、七十周年記念実行委員会（会長・副会長・理事長・副理事長構成）を設立させていただきました。記念誌発行に関しましては、役員会と総会の了承を得まして、種々準備を進めております。六月末現在、三社の印刷業者に相見積もりを出してもらい、一社に決定した段階です。今後は、内容に関して徐々に詰めていき、できる限りいいものを作っていけたらと考えております。

作品写真を撮る関係で、出品締切りを令和四年十一月末日に設定させていただきます。例年より二か月半ほど早くなりますので、ご予定下さいますようお願い申し上げます。

原稿依頼等は、秋頃になるかと思います。ご執筆のご協力をお願いいたします。

まだ内容に未確定なところも多いため、実行委員会にお任せいただければ幸いです。

皆様の七十回記念展への力作のご出品を、心よりお願い申し上げます。

令和四年　東書藝総会

六月十九日（日）、中電ホールにて東書藝総会が開催された。

出席者百六十八名、委任状四百三十一通で総会は成立。司会は羽根田菖風常任理事。冒頭、愛知県知事・大村秀章名誉会長より激励の挨拶を頂いた。

風岡五城会長からは、来年、東書藝展が第七十回を迎えるにあたり、創立以来の精神「自由かつ大胆な創作」「書壇に新風を送らん」を思い起こし、何かひとつ挑戦をして、記念の年にしてほしい、という挨拶があった。また、木村大澤理事長からは第七十回記念展では記念誌を作成し、発刊する計画が伝えられた。

議長には三品芳翠常任理事が選出され、以下の報告・議事が承認された。

①令和三年度事業報告
②令和三年度会計報告
③令和三年監査報告
④令和四年度事業計画並びに予算案
⑤新役員について
⑥昇格者に委任状の授与

〔講演会〕

総会後には「硯の文化」という演題のもと、硯刻家の名倉鳳山氏（鳳鳴堂五代目、新城市指定無形文化財保持者）にご講演を頂いた。

石材と硯の作り方、硯の歴史、目指す硯の姿、硯の選び方と修理についてなど、豊富な話題と美しい作品の写真とともに解説された。

最後に、鳳来寺硯、端渓硯、歙州硯を用いた試し磨りを行い、硯による磨り心地や色の出方の違いを味わった。紙との相性の良さや、粗い・細かいなど好みの磨ぎを見つけることも大切だという。その後、風岡会長、安藤副会長によって色紙作品が揮毫され、出席者にプレゼントされた。

’22「今日の書」代表作家展

中部圏書芸作家協議会主催

八月二日（火）～七日（日）、栄サンシティギャラリーで開催。中部圏書芸作家協議会を構成する四団体、以文会・玄玄書作院・書典社・東海書道藝術院から計三十三点の展示で、東書藝は幹部作品が十二点。半切まで程のサイズの規格。各団体を代表する作家の作品はそれぞれに個性的で一味も二味も違って興味深い。「書の伝統に根ざした今日の書をめざして」のスローガンは奥深く遥かだ。その姿を追求する作家の、熱いエネルギーを感じる展覧だった。

風岡五城　会長

安藤清舟　副会長

木村大澤　理事長

社中の歩み

◇**第13回幽石書道会展**
会期　3月25日～29日
主催　幽石書道会（熊谷真川）

◇**第63回新道書道会展**
会期　4月29日～5月1日
主催　新道書道会（豆子紫甲）

◇**第43回宏道書会選抜展**
会期　5月10日～15日
主催　宏道書会（山本晴城）

◇**第64回游心書展**
会期　5月10日～15日
主催　游心書道会（松浦白碩）

◇**第27回無名會書展**
会期　6月14日～19日
主催　無名會（渡辺清香）

◇**’22心象展**
会期　7月6日～10日
主催　好日社（岩田冬崖）

◇**第38回清和会書展※**
会期　8月23日～28日
主催　清和会（西尾邑城）

◇**第48回宏道書展※**
会期　8月23日～28日
主催　宏道書会（山本晴城）
※校了時では開催予定

今後の予定

◇**第56回碩山書院一門展**
会期　9月10日（土）、11日（日）
会場　蒲郡市民会館東ホール
主催　碩山書院（大竹翠葉）全振興会

◇**第25回東書藝選抜小品展**
会期　9月13日（火）～18日（日）
会場　栄サンシティギャラリー
主催　東海書道藝術院

◇**第40回記念飯田書人会展**
会期　9月16日（金）～20日（火）
会場　飯田創造館
主催　飯田書人会（加山幽石）

◇**第22回心書会展**
会期　9月23日（金）P.M:1:30～25日（日）
会場　亀山市文化会館
　　中央コミュニティセンター
主催　心書会（安藤清舟）

◇**第11回尚友書展**
会期　11月1日（火）～6日（日）
会場　栄サンシティギャラリー
主催　尚友会（荒川青曠）

◇**第45回記念公募梓会書道展**
会期　11月8日（火）～13日（日）
会場　愛知県美術館ギャラリー
主催　書道研究梓会
　　（勝川香艸・伊藤春魁）

◇**第39回花墨会展**
会期　12月17日（土）、18日（日）
会場　三重県菰野町図書館2階
主宰　松岡麗泉

編集後記

◇三年ぶりに開催成った院人研修会。会員の意欲はコロナに負けず健在で、盛況だった。
◇今号は幹部役員、受賞者の皆様に協力を頂いての編集。深く感謝申し上げます。
◇社中展訪問記が掲載出来なかったが、其々大いに刺激を受ける展覧で頼もしかった。
◇第七波到来中、ご自愛を。

令和四年八月　第一四六号
発行　東海書道藝術院
編集　加藤松亭
　　堀江龍舟